

25077C

## 種子イチゴイノベーションに向けた栽培体系と種苗供給体制の確立

### 1 代表機関・研究総括者

三重県農業研究所・森 利樹

### 2 研究期間：2013～2015年度（3年間）

### 3 研究目的

イチゴ生産が栄養繁殖から種子繁殖に変わるイノベーションの先駆けとして、種子繁殖型の新品種に係わる栽培技術と種苗供給の体系を確立し、最初の成功事例を作る。

### 4 研究内容及び実施体制

#### ① 新品種の花成特性解明と本圃直接定植法の確立

全国各地の気象条件の違いを利用し新品種の花成特性を解明するとともに、各地における本圃直接定植法を確立する。

（香川県農業試験場、（独）農研機構九州沖縄農研センター、山口県農林総合技術センター、三重県農業研究所、千葉県農林総合研究センター、（独）農研機構東北農業研究センター、北海道立総合研究機構花・野菜技術センター）

#### ② 栽培実証モデルを活用した生産流通技術体系の確立

新品種の栽培実証モデルを設け、その技術的課題の解決を進めることにより、実用性の高い生産流通体系を確立する。

（（独）農研機構九州沖縄農研センター、香川県農業試験場、香川県農業経営課、山口県農林総合技術センター、三重県農業研究所、三重県中央農業改良普及センター、（株）オイシックス）

#### ③ 種苗生産流通の基盤技術整備と優良事業者の育成

種子純度検定法と発芽率を高める種子生産技術を確立するとともに、研究に使用する種苗についてモデル的種苗生産流通を試みる。

（（公財）かずさDNA研究所、三重県農業研究所、三好アグリテック（株））

### 5 達成目標

種子繁殖型品種の本圃直接定植法を確立し、育苗労力を80%削減する。また、種子純度検定法を確立し、信頼性の高い種苗生産事業者を育成する。

### 6 期待される効果

種子イチゴイノベーションの先駆けになることによって、国内だけで市場規模105億円の新しい種苗産業が出現し、日本の農業を牽引する力強いアグリビジネスメジャーが出現することが期待できる。

既往の関連成果

登場！ニュータイプのイチゴ新品種  
種子繁殖型品種「系統23」

種から育つから  
増殖率抜群  
病害虫に侵されていない



しかも・・・美味しい



四季成り性で新しい栽培法が

研究の目標

- 農家の育苗労力を80%削減
- 種苗販売先に栽培技術を指導できる優れた種苗生産事業者
- 種子の純度検定法

中課題1:新品種の花成特性解明と本圃直接定植法の確立

花芽ができる条件  
一季成り性:短日・低温・低窒素  
四季成り性:長日・低温・低窒素

新品種はどんな条件で  
花芽をつけるのか？

各地の気象条件  
の違いを利用して  
探る



ポットに植えて窒素が切れると、花芽はできるが作業が大変。本圃に直接植えると作業は楽だが窒素を吸って花芽ができにくい。

本圃直接定植法を確立して  
省力化を実現

中課題2:栽培実証モデルを活用した生産流通技術体系の確立

栽培実証

新技術挑戦的生産者

栽培実証

JA・生産者団体

栽培実証

観光農園

栽培実証

苗生産と  
果実生産の  
一貫経営

有利販売の試み

品質基準の確立  
インターネット販売の挑戦

開発技術の活用

研究利用の種苗供給を  
種苗流通モデルに

中課題3:種苗生産流通の基盤技術整備と優良事業者の育成

セル苗生産流通実証

良い苗を作る  
病気感染がない

生産者に新品種に適した  
栽培技術を付加して

種に混ざり物はないか  
種子純度検定法の確立

1粒ずつDNAを調べる

発芽は良いか  
交配・採種・保管法の改良

手間を掛けず簡単に

種子イチゴの成功事例  
種苗流通基盤の確立

関連する研究

植物工場 三重拠点・九州沖縄拠点



- 植物工場に適した栽培技術
- 未来指向の技術開発

いちご生産  
産業界が変わる

イチゴは栄養繁殖から種子繁殖へ

苗生産の専門化

新しい種苗産業 国内105億円

大規模生産・新規参入の促進

海外でも強い日本のイチゴ

育苗労力と病害虫被害の削減

F<sub>1</sub>品種で輸出が可能

国内農業を牽引する力強いアグリビジネスメジャーの出現に期待